

第1回大分県新長期総合計画策定県民会議

未来創造部会

日時：令和5年9月6日(水) 11:10~12:10

場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間C

No.	項目	発言要旨
1	変化1 視点2 論点① サード プレイス	<ul style="list-style-type: none"> ・フリースクールの充実については、単純に数を増やすのではなく、代表者をはじめそこで関わる大人ができるだけ質の高い教育を子どもたちに提供できるようにしなければならない。経済的に厳しいところがあるので、質を高めていけるような機会や経済的支援が必要。 ・フリースクールは法制度が整っていないため、誰でもフリースクールを運営できる状況であることから、虐待やネグレクトの温床になりがち。そういった状況も認識していただきながら、質の高い教育現場を目指すという意味の充実を掲げるべき。
2	変化1 視点3 論点① 教育	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対する教育も大事だが、企業の経営者をはじめとする社会人に対するリカレント教育も重要。今後の方向性にリカレント教育の充実も入れるべき。 ・課題解決型学習を行うにあたり、企業を訪問するために問い合わせをしようとしても、忙しいからホームページを見てくれという対応があると聞く。企業側も高校生や小中学生を受け入れて育てようとする意識を持つべき。 ・高校における探求の時間で人気があるのは「職業」や「国際理解」の分野。どのようなテーマを設定して充実を図っていくのか。また、評価指標の設定も難しいと考えている。 ・おおいた地域連携プラットフォームを活用していただきたい。
3	変化1 視点3 論点① 教育	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決型学習の充実については、教育現場は多忙で難しい部分があるため、インターン・企業訪問や地域活動への参加など、学校現場以外での活動が必要。 ・学校と企業が協力して一緒に子どもを育てていくという意識を双方で持つことが重要。
4	変化1 視点3 論点① 教育	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決型学習については、どのような方向性で、どのような目的や目標を持って充実させていくかが重要。基礎学力をしっかりと付けた上で、プラスアルファでやっていくべき。
5	変化1 視点3 論点① 教育	<ul style="list-style-type: none"> ・今の若い世代は、仕事を通じて社会課題の解決に貢献することに働きがいを感じる事が多く、マインドの変化が起きていると感じている。そういった学生の視点を入れることも大事。県内の社会課題解決のために大分で働きたいという機運を醸成することにも繋がるのではないかな。
6	変化2 視点2 論点① 移住	<ul style="list-style-type: none"> ・おんせん県なのに温泉の話が全く入っていない。自治体を持つユニークセーリングポイント（USP）は忘れてはいけないし、ぶれてはいけない。 ・温泉を観光や入浴だけではなく、他のとらえ方がないだろうか、温泉を活用して地域課題を解決できないだろうかという多角的な視点が重要。 ・温泉の可能性をもっと広げて見せていくことが、移住者の増や、ソリューションを持つ二拠点居住者が大分県の課題を解決してくれることに繋がると考えている。
7	変化2 視点2 論点② 移住	<ul style="list-style-type: none"> ・移動時間の短縮も分かるが、あえて時間をかけることも大事。価値感の違いを示すことで、新たな価値が生まれると感じる。そういった視点で、人口減少や教育ほか、様々な課題を別の角度から見ること大事。
8	変化3 視点1 論点④ カーボン ニュートラル	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンクレジットは間違いなくこれから伸びていく分野。林業者としてクレジットをたくさん創出するとともに、大分県下で脱炭素を目指す企業をどう増やしていくか、「脱炭素機運」を、10年後に向けて高めていくことが大事。 ・クレジットをつくることも買うことも義務ではないので、ビジョンに盛り込むとともに、クレジットをつくる・買う事業者がすばらしいんだということを行政が積極的に発信すべき。脱炭素の取組がひいては自然災害の減少につながることで、森の中にお金が落ちて森が整備されていくという循環までを「大分モデル」として生み出していくべき。

第1回大分県新長期総合計画策定県民会議

未来創造部会

日時：令和5年9月6日(水) 11:10~12:10

場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間C

No.	項目	発言要旨
9	変化5 視点2 論点④ 広域 交通	<ul style="list-style-type: none"> ・豊予海峡ルートによって人流が活性化して、大分県と愛媛県の観光がさらに活性化するというプラスの面がある一方で、過去、フェリー会社が、明石海峡大橋が開通したことで、徳島航路、高松航路、愛媛航路などすべて採算が合わずに撤退したという経緯もあり、直下を運航するフェリー会社がいることも踏まえると、諸手を挙げて賛成とは言えない。 ・物流業界の2024年問題により、2024年以降は、トラックが1日に走行できる距離の目安が500~600kmになるとも言われており、豊予海峡ルートがトンネル又は橋で開通すると大阪~大分間が500kmを切ることになるので、運送会社がフェリーから陸路へ切り替える影響もある。 ・脱炭素の観点からいうと、物流におけるモーダルシフトの流れから逆行することにもなるので、船会社への何らかの対策も考えていただきたい。 ・経済観光産業の活性化に繋がる広域交通ネットワークの充実は、さらに推進していくべき。
10	変化5 視点2 論点④ 広域 交通	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本県がTSMCの進出により、半導体産業や関連産業が非常に活性化していることから、中九州自動車道の整備促進を急ぐべき。 ・マイクロモビリティやMaasなどをビジネスチャンスに繋げたいと考える県内自動車業界や製造業の若手・経営者の支援も検討していただきたい。
11	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・部会資料の着色部分以外にももっと論じるべき点があるのではないか。会議終了後に、委員の方から意見を聴取して、次回に活かしていただきたい。